

～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

# 東京教師養成塾通信

発行日 平成 28 年 8 月 7 日  
＜第 4 号＞  
発行元 東京都教職員研修センター  
研修部教育開発課  
電話 03-5802-0318

## ●第 7 回講座「授業づくりの基礎③～単元指導計画の作成から授業実践へ～」

平成 28 年 7 月 16 日（土）に、単元指導計画作成の考え方や指導方法を理解することをねらいに第 7 回講座を行いました。

小学校コースの塾生は、社会科と理科の授業づくりに関する講座を受講しました。

社会科の講座では、初めに東京教師養成塾の担当教授が社会科の目標や学年ごとの指導内容、問題解決学習について、単元指導計画の作成のポイントに関する講義を行いました。その後、小学校第 5 学年「水産業のさかんな地域」を題材に学習問題をつくる授業の演習が行われました。塾生は、「水産業のさかんな地域の人々は、必要な魚を確保し、消費者に届けるためにどのような工夫や努力をしているのだろうか。」という学習問題に到達させるために、提示する資料の順番を決め、どのような学習活動を行うかを考え、グループ演習を行いました。塾生は意見を交わす過程で、一つの教材でも様々な解釈ができ、資料の提示を工夫する大切さを学びました。



－グループ協議の発表の様子－



－模擬導入実験の様子－

理科の講座では、初めに東京教師養成塾の担当教授が理科で学ばせたいことや単元を通した理科の授業づくりについて講義を行いました。講義では、小学校第 3 学年「電気の通り道」を題材に、導入で多様な事象を提示することや追究意欲を持続させる展開、児童の結論を新たな問題発見へとつなげることの大切さについて話がありました。その後、小学校第 4 学年の「ものの温度と体積」を題材に 1 単位時間分の指導案を作成する演習が行われました。模擬導入実験が行われ、塾生は児童の意欲を高めるための事象提示の方法について学びました。

特別支援学校コースの塾生は、生活単元学習等の授業づくりに関する講座を受講しました。初めに東京教師養成塾の担当教授が特別支援学校の教育課程や学習指導要領、単元指導計画の作成について講義を行いました。知的障害のある児童・生徒の教科指導や各教科等を合わせた指導を中心に話があり、塾生は児童・生徒の実態に応じ、学習活動に生活的なねらいをもたせることの大切さを学びました。その後、塾生が各自で作成した単元指導計画を基に協議を行いました。自らが考えた単元指導計画を熱心に説明する塾生が多く、活発に意見が交わされました。



－班別協議の様子－

今後、塾生は 10 月 16 日（日）の公開ゼミナールに向けて、各班で模擬授業の学習指導案を検討し、授業をつくりあげていきます。

### 【塾生の感想より】

各教科の目標や特性を理解した上で、単元指導計画を作ることが大切であることを学んだ。その単元で、何を、どのように学習するのかを整理し、単元を通して一貫した指導をしていきたい。

## 英語に関する講座が始まりました

今年度、新たに開設された英語に関する講座の初回が 7 月 16 日（土）に行われました。この講座は、英会話等の体験を通じて、外国語指導助手とコミュニケーションを取る力を高めるとともに、外国語活動の指導の基礎を身に付けることを目的にしています。

初回では、まず、塾生は英語の試験を受けて、現在の自分の英語力を把握しました。その後、塾生は 10 のグループに分かれて、自己紹介やユーモアを交えた他者紹介、外国語活動の授業で使う挨拶や天気を英語で表現する講座を受けました。講座開始時は、硬い表情をしていた塾生が多く見られましたが、講座が進むにつれて明るい表情の塾生が多くなり、英語で会話することを楽しんでいる様子でした。

英語に関する講座は、全 8 回実施します。塾生には、講座を通じて自信をもって英語で話すことができるようになることを期待しています。

### 【塾生の感想より】

英語の授業を行う上で、まず教師自身が楽しむことが大切だと思った。また、ジェスチャーも表情もとても重要なものだと思感した。



－ペアワークの様子－

## ◆ 見つけ、見渡し、学び続ける — 自己を振り返り、学び続ける姿勢 — ◆

東京教師養成塾教授 近谷 幹男

東京教師養成塾では、目指す教師像として、第一に、「社会の変化や子供・保護者の願いを的確に捉え、実践的な指導力や企画力を高める教師」、第二に、「幅広い教養を身に付け、総合的な見地から課題解決に当たり、学校教育を創造する教師」、そして第三に、「地域や社会貢献の活動に取り組み、自らの視野を広げ、子供に夢や感動を与え、将来への展望を切り拓く教師」を挙げており、教育の専門家としての力量を高めることの重要性について示しています。

ここに示された目指す教師像に近付くためには、日々の研鑽の積み上げをすることが大切です。そのため、自己を5年、10年という長期的に見て、どのように力を付けていくか、どのように研修を行っていくかを考え、計画的に研修していくことが大切です。優れた教師がもっている教科等の専門性や指導技術の向上及び学級経営における実践的な指導力を身に付けるため、塾生には、見つけ、見渡し、学び続ける姿勢を大事にさせています。

一方では、優れた先輩・先達の教育実践から学び、吸収することが大切です。よい実践、よい教育を目の当たりにすることほど刺激的で参考になるものはありません。塾生は、年間を通して教師養成指定校において優れた実践をしている教師の授業や指導を観察できるという環境に恵まれています。その学級の子供たちの育っている様子をじっくり観察し、そこから、目標としたい姿、教育実践の在り方を見付けることができます。優れた実践、よい教育の形、そこに育っている子供の姿をしっかりと目に焼き付け、自己の研修や実践に生かしていくよう取りまわしています。

常に教師として、教育に対する情熱をもって臨むことが、何にも負けない原動力となることを実感させ、自己を振り返りながら、理想の教師像を目指し学び続ける態度を育成してまいります。

## ◆ 単元指導計画の作成と本時の授業づくり ◆

東京教師養成塾教授 安齋 正彦

早いもので東京教師養成塾生が入塾してから間もなく4ヶ月が経とうとしています。塾生一人一人に形成期における教師養成指定校での授業実践を振り返らせたところ、始めの頃は、学習指導案通りに進めることに一生懸命で、一人一人の児童・生徒の様子を捉えることが難しかった、本時のねらいに迫れる学習展開にならなかった等の声が聞かれました。しかし、最近は、授業実践も回を重ねる度に、上手くいったこととともに自己の課題も見えてきています。

これまで、児童・生徒にとって楽しく充実した授業を展開するには、確かな単元指導計画を作成し、毎時間の授業づくりを着実にすることが大切であると、塾生には繰り返し指導してまいりました。今後は、伸長期からの授業に備えるために、単元指導計画の各項目に沿って、以下のポイントになることを挙げ、塾生一人一人にとって、目指す授業づくりの参考となるように指導を積み重ねてまいります。

### 1 単元の目標

学習指導要領の目標や内容、目の前にいる児童・生徒の学習状況に基づいて、単元全体で児童・生徒に身に付けさせたい力を具体的に設定する。そのために、指導計画における各授業の本時の目標をきちんと押さえ、意識すること。

### 2 単元の評価規準

単元の指導目標を踏まえ、観点ごとの評価規準を設定する。そのために、児童・生徒の学習状況を適切に評価し、指導に生かすために、具体的な評価規準を記述すること。

### 3 指導観

指導観には、何を、どのように指導するのかという教師の思いを表現する。確かな授業計画立案のためにも、単元観、児童・生徒観、教材観のそれぞれの項目が互いに関連付けられるよう記述すること。

### 4 指導計画と評価計画

児童・生徒が見通しをもって学習できるような指導計画を立案する。指導計画と評価計画を一体的に作成し、評価機能を高めるためにも、授業中の評価活動をきめ細かに行き、評価したら、次の指導に生かし、指導したら評価するという繰り返しの操作を行うこと。

塾生には上記のようなポイントを押さえて計画を立てさせ、本時の授業づくりに入らせます。単元の目標を達成させるために、いろいろな指導方法を工夫することも指導者としての楽しみの一つになるよう塾生一人一人に取りまわせます。そして、何よりも、各教師養成指定校の児童・生徒の意欲的に活動する姿が見える授業の展開となっていくよう塾生一人一人に期待しているところです。